

企業理念を制定して価値観を共有 「入社してよかった」と思われる会社に

千葉県稲毛区に本社を構えている稲毛運送(株) (藤川勇祐代表取締役) は、祖業である大手運送会社関係の輸送から、電力会社関係の書類輸送、そして現在では自動車部品輸送と、創業以来着実に事業の幅を広げてきた。同社は、トラック運送事業を通じて会社のために日々頑張っている従業員とその家族の生活を支えるとともに、「物流は経済の血液」と位置付けて、高品質な輸送サービスの提供を通じて、経済および地域社会の進歩発展に貢献する企業になることを目指している。



自動車部品輸送を行う同社の大型車の前に立つ藤川社長

■高品質な輸送を守るため安全対策に注力 「休みやすい職場づくり」にも取り組む

稲毛運送(株)の歴史は、昭和34年に大手運送会社の荷扱所として開設されたことから始まる。創立当初は百貨店の中元・歳暮の配達などを行っていたが、新たに電力会社関係の書類輸送を手がけるのを機に、藤川社長の祖父である初代社長が運送業許可を取得し、稲毛運送を立ち上げた。その後、新規取引先の開拓を積極的に進め、現在は自動車部品輸送を中心に事業を展開している。

同社が手がけている自動車部品輸送では、自動車部品メーカーで製造された様々な部品を、大型車や中型車、2トン車で自動車工場に輸送する。自動車部品には繊細なものが多く、また高い品質が求められていることから、輸送の際には、輸送中の自動車部品に与える衝撃や振動を最小限に抑える、安全性の高い運転操作を行う必要がある。また、納品の際には、同社が自動車部品を納品する8か所の自動車工場ごとに、荷卸し作業の際の禁止事項や注意事項などが事細かに定められており、それらの遵守が強く求められる。

同社のドライバー採用をみると、運送業界経験者の採用が比較的多いものの、自動車部品輸送に使用される大型トラックのドライバーの場合、一人立ちするまでに要する期間は、業界経験者であっても入社してから2〜3か月ほどかかるという。新人ドライバーの教育に際しては、先輩ドライバーによる同乗指導を時間をかけて充分に行い、納品先ごとのルールをしっかりと覚えてもらうようにしている。

また、同社では大型車に乗務する全てのドライバーを対象に、同乗研修を実施している。毎月1回同乗研修の対象者を決め、管理者が同乗しながら自動車部品輸送を実施。もし同乗の際に輸送や積卸作業で不備が認められた場合には、管理者がドライバーに指導を行い、是正を促している。

「もし当社のミスで自動車部品の輸送が止まったとしたら、自動車の生産ラインも止まってしまい、大きな問題となります。当社

としては物流を途絶えさせるようなことなく、自動車部品を安定的に供給できる物流体制を整えていく必要があります。高い輸送品質を維持し続け、取引先からの信頼に応えていくためには、ドライバーに対する教育が何よりも大事だと考えています。一方で、業界経験の豊富なドライバーにありがちな「これまで培ってきた経験を基に自己判断をしてしまう」ような人は、ミスやトラブルの原因にもなりかねません。当社では、ドライバーを採用する際には『自分のルールを作ってしまうような人は当社には残れない』と厳しく指摘しており、会社が定めたルールに従ってくれる人、真面目で正直な人をしっかりと育てていきたいと考えています」(藤川社長)



藤川 勇祐
代表取締役

同社における安全教育では、年間スケジュールに沿って、3か月おきに「面談」、「安全会議」、「KYT(危険予知訓練)」を行っている。

面談では、業務上で抱えている問題や不安、人間関係や配車スケジュールに対する不満などを管理者がドライバーからヒアリングするとともに、安全性向上に向けた提案などを聞くようにしている。また、対面で話し合うことで、ドライバーのメンタルチェックにも繋がっている。

安全会議は1か月間に数回、少人数のグループごとに実施しており、面談でドライバーから提案された内容をグループ内で共有し、安全意識向上に繋げている。

KYTでは、ドライブレコーダーの映像をドライバーに見てもらい、同じような事故を防ぐためにどのようにすればいいかを話し合ってもらう。出席できなかったドライバーに対しては、スマートフォンの通信アプリに映像のURLを送信し、荷待ち時間などに視聴させるようにしている。なお、ドラレコやデジタルタコグラフ、



平成 26 年 10 月、同社をより良いものとするために、藤川社長は企業理念（写真）と「6つの心構え」を制定した



大雨や強風などの悪天候が予想される時には、対面点呼においてドライバーに注意喚起を行うようにしている



藤川社長は従業員に対して積極的に話しかけ、価値観を共有することで社内の一体感を生み出すように心がけている

バックモニターは、一部を除いて全車に導入済みである。

また、乗務前後の点呼は必ず対面で実施するようにしているほか、点呼場のホワイトボードにはその日の注意事項を記載し、ドライバーに注意喚起を図っている。

同社ではデジタルによるドライバーの労働時間管理に力を入れており、現在は1か月あたりのドライバーの残業時間を80時間に抑えるようにしている。それを実現させるために、同社では各ドライバーの担当ルート以外のルートも担当できるようにしており、月80時間の上限を超えそうなドライバーは運行時間の短いルートを担当させるようにするなど、業務を平準化させることで残業時間削減に繋げている。

さらに、同社では「休みやすい職場づくり」への取り組みも進めている。同社では土曜・日曜の完全週休2日制を採っているほか、大型連休や夏季・冬季休暇もあり、年間休日数は120日以上となっている。また、有給休暇の取得促進も加速させるなど、ドライバーのワーク・ライフ・バランスの実現を図っている。

「『休みやすい職場づくり』を進め、仕事と私生活をともに充実させることで、仕事と生活の相乗効果による従業員の能力向上に繋がるほか、従業員の定着率向上も期待できます。一方で、休みやすい職場を実現させるためには、休暇を取得した従業員の代わりとなる人員を確保しておく必要があります。当社では一昨年から取引先との運賃交渉を進め、運賃アップを実現していますが、値上げ分は余裕人員確保のための原資として活用しています」(同)

同社は藤川社長の祖父が創立し、父親が2代目社長を務めており、藤川社長は幼少期から会社を継ぐ前提で育てられてきたという。

一方で、藤川社長は音楽に興味があったことから、音楽科のあった高等学校に進学したものの、同級生のレベルの高さに圧倒されて音楽の道を挫折。高校卒業後は専門学校で音響技術を学んだ上で、映像制作会社に入社したものの、入社後3年で父親に呼び戻されて21歳で同社に入社。入社後は、ドライバー兼配車係とし

て日々仕事に励んできた。

そして、2代目社長である父親に「これからは自分がこの会社を率いていく」と宣言。19年前に40歳で、藤川社長は同社の3代目社長に就任した。

社長に就任してからの苦労について、藤川社長は「当社の仕事量が減れば、売上は当然減ります。しかしながら、経営者としては売上が減ったとしても、会社のために日々がんばってくれる従業員の生活を何としても守っていかねばなりません。『経営は赤の他人の生活を支えること』であり、厳しい経済環境に直面しながら自社の経営を維持していく大変さを痛感しました」と、社長就任後の20年近くを振り返った。

藤川社長は、従業員に「この会社に入社してよかった」と思ってもらえるような会社にしていきたいという強い思いがある。そうした中で、藤川社長は平成26年10月、同社をより良いものとしていくために、企業理念と「6つの心構え」を制定した。企業理念では、「全従業員とその家族の物心両面の幸せを追求すると同時に、『物流は経済の血液』と認識し、経済及び地域社会の進歩発展に貢献する。」と、会社として従業員やその家族の生活をしっかりと支えていくという強い姿勢を鮮明にした。また、企業理念で示した同社の姿を実現させることを目指すために従業員に求めている「6つの心構え」では、①努力、②謙虚、③反省、④感謝、⑤善行、⑥悩まない——と、同社の従業員としてあるべき姿を明示した。これらについては、安全会議などの機会に藤川社長が従業員に話し、価値観を共有することで、社内の一体感を生み出すように心がけているという。

最後に、藤川社長に今後の同社の目指す方向性について伺った。

「当社はこれまで、大手運送会社関係の輸送に始まり、電力会社関係の仕事、そして現在の当社の事業の屋台骨となっている自動車部品輸送と、着実に事業の幅を広げることができました。今後は、当社のもつ強みを活かしながら、業容拡大を図るために、さらなる新規開拓を進めていきたいと考えています」(同)

ホットにゆーす

■楽しみは多くの人の前で弾く「ギター」 今月は歌手のステージにも出演

藤川社長の趣味は、ギター演奏である。

中学2年の時にアリスの「チャンピオン」を弾きたくてギターを覚えた藤川社長は、合唱クラブや敬老会への慰問などでの演奏を通じて、人前でギターを弾くことが好きになった。今年3月30日に開催された地元の祭り「稲子祭」でも、藤川社長は演奏を披露した。

「稲子祭では『さくら』（森山直太郎）や『TRAIN-TRAIN』（THE BLUE HEARTS）を演奏しました。気に入った曲が弾けるようになると、とても嬉しいです。今年5月には、『闘う歌姫』とも謳われる前田瑠美さん（歌手・武道家）のステージで演奏する予定です」(同)



3月30日に開催された「稲子祭」のステージでギターを演奏する藤川社長

企業プロフィール

稲毛運送 株式会社

代表取締役 藤川 勇祐

所在地 千葉県稲毛区稲毛 1-17-12

従業員 29人（うちドライバー 26人）

台数 23台